

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成25年9月26日(木) 4校時

対象 男7名 女11名 計18名

指導者 関 智

1 単元名 音読げきをしよう (光村図書 下)

主教材 「お手紙」(物語文)

2 単元について

(1) 児童について

児童はこれまで、「ふきのとう」「スイミー」の学習で、場面の様子や登場人物の気持ちについて、役割分担したり、動作化したりしながら、想像を広げながら読む学習をしてきた。吹き出しなどに登場人物の気持ちを書き表す活動も積極的に取り入れてきた。しかし、言葉や文を手がかりにして、場面の様子などについて想像することや、読み取った内容を自分の言葉で表現する力は充分とは言えない。

そこで本単元では、ペアや学級での交流によって自分の考えと相手の考えの共通点、相違点などを知ることによって自分の考えを見直し、表現学習の仕方全体を学びながら、自分の思いを声に出して自分の言葉で相手に伝えていけるようにしたい。

さらに、会話が深いこの作品の特徴を生かして、音読を中心に活動させ、かえるくんとがまくんの心に寄り添い、場面の様子や登場人物の気持ちの移り変わりなどを感じ取らせたい。

(2) 教材について

本教材「お手紙」は、がまくんと、相手に対してとても優しく声をかけてあげられるかえるくんと
の友情を感じとれるお話である。かえるくんの言動は、お手紙をもらったことがないという、がまく
んの悲しみを共感的に受け止め、友達とはなにか、そして、思いやり、やさしさを考えさせてくれる。
この二人の心温まるやりとりや、かたつむりくんの一生懸命な姿が、子どもたちには素直にその心
を感じ取れるようになっている。

また、会話文が多いことから、音読や動作化する活動を通して読み進めていきたい。その中で、想
像力を働かせながら、登場人物の誰が言った言葉なのか、どんな気持ちで話しているのか考えさせ、
登場人物の気持ちの移り変わりを感じ取らせたい。また、読むことの楽しさや作品のおもしろさを味
わわせ、今後も長い物語やいろいろな本に興味をもって読むことができるようにしたい。

(3) つけたい力と読みの方法

【人物の様子や気持ちが表れるように音読すること】

○人物の会話や行動、気持ちに着目して読む

単元を貫く言語活動

音読劇

本教材では、登場人物の気持ちが相手に伝わるように音読するという活動を通して、叙述をもと
に想像して、楽しく読むことを習得させたい。

そのために、「見通す」段階では、手紙を書いたり、もらったりした経験を思い起こさせる。さら
に、単元の見通しを持たせるため、登場人物、場面、出来事を確認し、学習計画を立てる。

また、「深める」「まとめる」段階では、登場人物の会話文や行動に着目し、言動のわけを考
えて読み方を工夫したり、会話の続きを考えたりして想像を広げながら気持ちを読み取らせたい。さら
に、挿絵にも着目し、場面の移り変わりやがまくんの気持ちの変化を考える手がかりにしたい。そ
して、登場人物になりきって音読劇に取り組みせたい。しかし、勝手な表現にならないよう叙述に
立ち返り読みの根拠をもって表現の工夫をしながら、読み方の質を上げていきたい。

そして「広める」段階では、前段階で学習したことを生かして他のお話の音読劇を発表し、感想
を交流し合う。いろいろな考えに基づいた読みがあることに気づきながら、読みの経験を増やし、
物語を読む楽しさを味わわせたい。

3 単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	○物語の特徴を生かして、音読劇に表そうとしている。	・物語の特徴をつかみ、登場人物の気持ちを想像して読もうとしている。
読む能力	◎人物の様子や気持ちが表れるように語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(1)ア ○時、場所、人物、出来事や、場面ごとの人物の様子を読み取り、人物の気持ちを想像しながら読むことができる。 (1)ウ	・場面の様子をとらえ、会話文から登場人物の気持ちを想像して音読している。
言語についての 知識・理解・技能	○主語と述語の関係を理解している。(1)イ(カ)	・主語と述語の関係を理解し、使いこなしている。

4 単元の指導計画と具体的評価規準（12時間扱い）

段階	時	学習活動	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
見通す	1	・副校長先生が2年生に向けて書いた手紙を担任に読んでもらう。 ・全文を読み、好きなおもしろいところやおもしろいところを発表し合う。	・気に入ったりおもしろいと思うところを選んだりしている。		・新出漢字や意味の分からない言葉について確認する。
	2	・場面分けとグループ分けをし、学習計画を立てる。6人×5場面 ・音読劇のビデオを見せ取り組みの見通しをもたせる。		・挿絵や登場人物の言動から場面わけをしている。	
深める	3	・だれの会話文か確かめる。		・会話文の話し手を確認する。 ・出来事を整理する。	
	4	・二人の様子が伝わるような読み方を考える。 場面①②		・玄関の前の二人の会話から気持ちを想像し、読み方の工夫を考えて書き込む。	
	5	・手紙を待つ二人の動きを考える。 場面③④		・ベッドで寝ているがまくんと窓の外をのぞくかえるくんの様子を読み取り、会話に合わせた動きを考えて書き込む	

	6	・お手紙を待っているがまくんのセリフを考える。場面⑤		・うれしい気持ちになったがまくんの気持ちを想像して吹き出しに書いている。	
まとめる	7 本時	・音読劇の準備をする。 1 台本をつくる。		・文章をもとに、場面の様子や人物の行動について想像し表現している。	
	8	2 リハーサルをする。		・友だちのアドバイスをもとに工夫することを決め、音読に生かしている。	
	9	・1年生に向けてお手紙の音読劇をする。		・登場人物の様子や気持ちが表れるように発表している。	
広める	10	・他の作品を読んで好きな場面の音読劇をする。 1 台本をつくる。		・場面を想像しながら工夫するところを考え、音読に生かしている。	
	11	2 リハーサルをする。		・友だちのアドバイスをもとに工夫することを決め、音読に生かしている。	
	12	・お父さん、お母さんに向けてビデオレターをつくる。		・登場人物の様子や気持ちが表れるように発表している。	

5 本時の指導

(1) 目標

- ・文章をもとに、場面の様子や人物の行動について友だちと交流しながら想像し表現している。

(2) 評価の観点と具体的評価規準

観点・具体的評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 支援を要する児童への手立て
読む能力	・文章をもとに、場面の様子や人物の行動について友だちと交流しながら想像し表現している。	・文章をもとに、場面の様子や人物の行動について想像し表現している。	・登場人物の様子や気持ちをつかませ、どのような表現の仕方があるか助言する。

(3) 展開

段階	学 習 活 動 ○発問 ・期待する児童の反応 【指導の視点】	教師の関わり方 ・留意事項 ◎評価
見 通 す 5 分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の課題を確認する。 1年生に見てもらおう音読げきのじゅんぴをしよう。 3 活動の流れを確認する。 ・読み方の工夫、動き方の工夫、つけ足しのセリフを教科書に書き込んでいく。	・壁面の掲示物で確認する。 ・3つのポイントを板書で確認する。

<p>深 め る 35 分</p>	<p>4 課題を解決する。</p> <p>(1) 試しの音読をする。(7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習したことを生かした音読をグループごとに発表する。 <p>(2) 選んだ場面に、書き込みをする。(12分)</p> <p>【場面の様子や人物の行動が伝わるように表現方法を考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つのポイントに沿って、どのように読むか書き込みをする。(読み方・動き・セリフのつけたし) <p><u>手立て①自分の考えを持たせる手立て</u></p> <p>(3) グループごとに自分が書き込んだ工夫を交流する。(8分)</p> <p>【理由をつけながら自分の考えを表現する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そう考えたわけをつけて話す。 ・自分の考えと同じところ、似ているところ、ちがうところを言ってから話す。 ・実際に読んでみたり動いてみたりする。 <p><u>手立て②自分の考えを伝えるための手立て</u></p> <p>(4) まとめの音読をする。(8分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫を役割分担し、うまく相手に伝わったか確かめてみる。 ・他のグループの発表に対して、よかったことを見つけそれを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのポイントについて読みの工夫が表れていた児童をとりあげる。 ・3つのポイントのうち、その児童の得意な表現を生かすよう助言する。 ・6人1組のグループでまとまり、司会と発表する順番を決めておく。 <p>◎文章をもとに、場面の様子や人物の行動について想像し表現している。</p>
<p>ま と め る 5 分</p>	<p>5 本時の学習を振り返り、学習のまとめをする。</p> <p>6 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日、交流してよかったことを発表させる。 ・お手紙の音読劇の練習をすることを知らせる。

(4) 板書計画

<p>「いい考えた。とりいれよう」 「もっとよくならないかな」 「つけたしたらどうかな」 「りようほう合わせたらどうかな」 「こっこのほうがいいな」</p>	<p>【学習のながれ】</p> <p>①今まで習ったことを生かして発表する。</p> <p>②自分で書きこむ。(わけも考える)</p> <p>③グループでこうりゆうする。 同じ・にている・ちがう</p> <p>④まとめの読みを発表する。</p>	<p>○今まで習ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み方 ・うごき ・セリフのつけたし 	<p>お手紙 アーノルド ローベル</p> <p>めあて</p> <p>一年生に見てもらおう 音読げきのじゅんぴをしよう。</p>
--	--	--	---